

新・東京の鳥・2

カワセミ 一時は姿を消した東京のカワセミ

日本でもっとも美しい鳥のひとつがカワセミ〔写真1〕。都内各地の水辺にいて、バードウォッチャーやカメラマンを魅了しています。“カワセミを撮りたい”と、数十万から百万円もの大金でカメラ一式をそろえた人も多く、日本経済への貢献度は高いのではないのでしょうか。

ところで、今では都心の池でもよく見られるこの青い水鳥が、一時期、東京の水辺から姿を消したことをご存知ですか。



写真1 明治神宮・北池の畔で獲物を狙うカワセミ

東京オリンピックで消えた明治神宮のカワセミ

年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1954	×	×	×	×								
1955												
1956												
1957												
1958												
1959												
1960												
1961												
1962												
1963												
1964												
1965												
1966												
1967												
1968												
1969												
1970												
1971												
1972												
1973												
1974												
1975												
1976												
1977												
1978												
1979												
1980												
1981												
1982												
1983												
1984												
1985												
1986												
1987												
1988												
1989												
1990												
1991												
1992												
1993												
1994												
1995												
1996												
1997												
1998												
1999												
2000												
2001												
2002												
2003												
2004												
2005												
2006												
2007												
2008												
2009												
2010												
2011												
2012												

表 月例明治神宮探鳥会・カワセミの記録
 【凡例】縦軸：年 横軸：月
 ■：記録あり □：記録なし ×：記録不明

表は、月例明治神宮探鳥会での

「カワセミの出現表」で、1954（昭和29）年から昨年末までを知ることができます。表中の空白が記録なしの月ですので、1964（昭和39）年～1982（昭和57）年の約20年間は、その姿を明治神宮で見ることができませんでした。姿を消したのは明治神宮だけではなく、東京のほぼ全域です。

カワセミの姿が消えた年の10月10日は、第1回の東京オリンピックの開会日。オリンピック開催のために東京が大改造され、それまでの自然環境が破壊され、その影響で明治神宮のカワセミは消えたと考えられます。

「カワセミ後退図」1971年当時の状況

東京からカワセミがいなくなったのは、オリンピックの影響だけではありません。経済の高度成長期で、東京を中心として、カワセミがすんでいたような湿地は埋め立てられ、小川は下水道代わりに3面がコンクリート張りになり、土の土手はなく家庭雑排水の混入で汚染され、水に棲む生きものが激減しました。営巣する場がなく、餌のない環境に棲めるわけもなく、消えていったのです。図1は、そのようすを表したもので「カワセミ後退図」と呼ばれ、1971（昭和49）年に『野鳥』に発表され、マスコミでも取り上げられ、環境破壊・自然環境悪化の具体例として話題となりました。

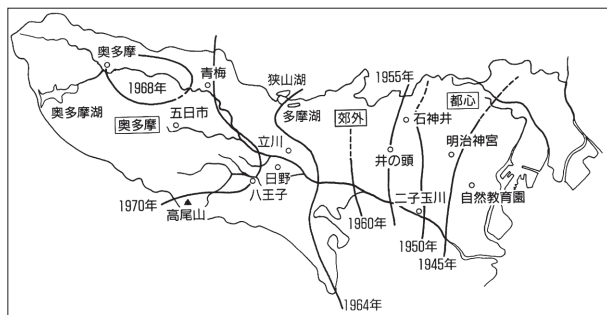


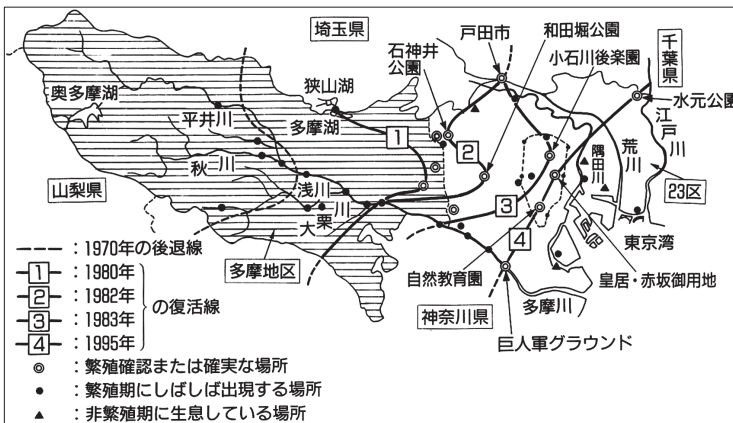
図1 東京におけるカワセミ生息の後退図

復活したカワセミ・1980年代

しかし、1970年代になると、行き過ぎた環境破壊にブレーキがかかり、農薬の散布や工場からの排出に規制が強くなり、また、下水道の普及も市街地では本格化し、一時はほとんど生きものが棲めないような状態にまで悪化した多摩川の水質も、少しずつ改善され、中流域でカワセミの姿を見ることが多くなりました。図2は、当会研究部が中心となって、調査・作成した「カワセミ復活図」〔図2〕で、1990年代半ばまでのようすです。

復活の勢いは強く、あっという間に23区内でも繁殖するようになり、80年代半ばには、JR山手線内でも営巣が記録され、復活ラインは、後退図の戦後すぐの1945年と重なるような状況となってしまいました。さらに1988年からは、港区の自然教育園内に掘られた残材を焼却するための穴〔写真2〕の壁面に横穴を掘り営巣をはじめました。

東京23区のカワセミ繁殖状況・1990年代



復活の勢いは東京全域に広がり、90年代半ばには、「東京23区の最近の繁殖状況(1986～1995年)」〔図3〕が作られ、港区の自然教育園では、1993年から連続して繁殖が記録されるようになりました。

なぜ復活したのか？その要因はいくつもありますが、主因は小魚の増加と考えられます。いろいろな形の規制や改善で、池や川の水質が少し良くなり、モツゴやアメリカザリガニなど、少し汚れた水

を好む小型の水生動物が増え、カワセミの食糧事情がよくなったと思われます。

しかし、営巣場所の不足はその後も続き、思いもよらないような場所で繁殖した例があります。そのひとつが、川沿いのコンクリート擁壁の水抜き穴に営巣する例で、全国的にいくつも見つかっています。興味深いのは、2002年夏に、墨田区押上2丁目の建築材料販売会社の敷地内で、斜めに積み上げられた砂山(山砂)に横穴を掘り、3羽以上の幼鳥が巣立った例です〔図4・18ページ〕。場所は、いまスカイツリーが建っているあたりで、付近の運河から食べ物を運んでいました。これは特殊な例かと思っていましたが、今年の夏にも似た例が見つかり、営巣場所不足は深刻といえるようです。

ところで、新・営巣場所として、各地にカワセミ用の人工屋が作られていますが、順調ではなく、設置初年度や数年間は営巣しても、その後はカワセミに見捨てられることが多いようです。しかし、23区内のある公園では毎年1～2回営巣するところがあります。さぞ営巣後のメンテナンスがいいのかと関係者に聞いたところ、公園管理者としてはまったく関わっていないとのこと。まだ調査中なので、よくわかりませんが興味あるところです。



写真2 自然教育園のカワセミ営巣地「カワセミ池」と呼ばれている。

21世紀の「新・カワセミ繁殖地図」作成・ボランティア集まれ！

最後にその繁殖に関して2つ。ひとつは明治神宮の池にカワセミはずっと棲みついています、苑内で

(川内 博)

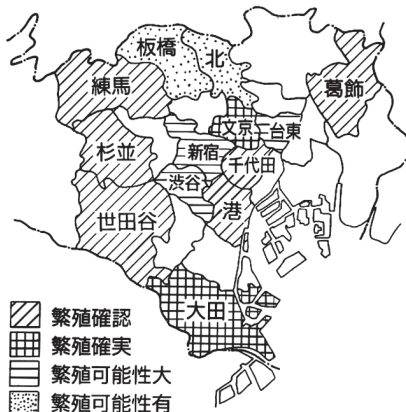


図3 東京23区別、1990年代前半のカワセミ繁殖状況

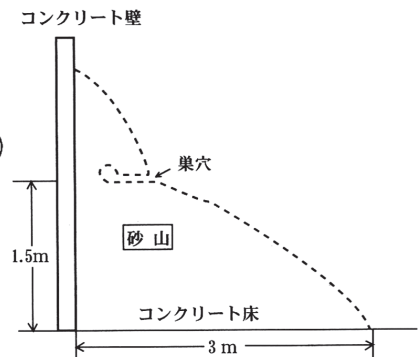


図4 東京下町の砂山でのカワセミの巣穴・断面図

松田道生, 1971. 減少する東京のカワセミ—東京支部・カワセミ分布調査から. 野鳥36(6)
川内 博, 1997. 大都会を生きる野鳥たち. 地人書館
川内 博, 2008. 砂山で繁殖したカワセミ. URBAN BIRDS. Vol.25
矢野 亮, 2009. カワセミの子育て. 地人書館
柳澤紀夫・川内 博, 2013. 明治神宮の鳥類 第2報. 第二次明治神宮境内総合調査報告書

み、3人で姿を探したが、確認できなかった。

10時30分から約10分間のことで、この間アカショウビンは鳴き続けていた。人による録音した音をスピーカーで流したのではとも疑ったが、そのような素振りの人はいなかったこと、女坂からの声が一旦遠ざかりまた近づいてきたこと、観察者3名が深山橋を渡ったあと、西側の斜面の声が谷の下流側に移動したこと等から本物と推定した。

4.報告・観察者：粕谷和夫他2名

D. 南浅川町と氷川神社裏山で鳴声を

- 1.日時：①5月25日と ②6月ごろ。ともに鳴声
- 2.場所：①5月25日は、南浅川町の「うかい鳥山」と「うかい竹亭」の間あたりの山。②6月ごろの記録は、高尾山口駅近くの氷川神社裏山
- 3.状況：野鳥の会の会員ではないが、会員の方と

日ごろ親交があり、アカショウビンの声は知っていた。どちらもやや遠くからであったが、特徴のある鳴声をけっこう長く、しっかり聞いた。

4.報告者：落合葉子

※ 高尾山のアカショウビンの記録を集めています。すでに鳥信に報告されたもの、ホームページなどで発表されたものも含めて、お知らせください。高尾山やその周辺で撮られた写真がありましたらご提供ください。

【観察・記録の送り先】

- 1.E-mail:office@yacho-tokyo.org
- 2.Fax：03-5273-5142
- 3.はがき・手紙：〒160-0022 新宿区新宿5-18-16
新宿伊藤ビル3階
日本野鳥の会東京・アカショウビン係あて

■事務局ニュース

◎7月度幹事会7月7日(火)

日本野鳥の会東京事務所

I.報告事項

- ①葛西五輪関係の経過
- ②葛西での消防訓練・鳥の鳥問題について
- ③三宅島探鳥会について
- ④月例高尾探鳥会11月について
- ⑤6月事務局会議
- ⑥行事報告18件

⑦会合・事務局報告

5月中旬現在 会員数2,705名

II.審議事項

- ①前回議事録 …一部訂正の上で承認
- ②行事予定7件 …承認
- ③調査活動のボランティア保険について …承認
- ④野鳥の保護研究基金の募金 …承認
- ⑤研究部「日本野鳥の会東京・月例探鳥会記録解析グループ」の発足と第一次計画について …承認

編集後記

★月例多磨霊園探鳥会のバスについて。今までは「武99または磨01」でしたが「武85または武95」になります。

★月例の東京港野鳥公園について。

ネイチャーセンターが工事に入るため、コースや休憩場所が変更となります。詳しくは当日に決まりますので、担当の説明にご注意ください。

(ロプロポ)



ユリカモメ … 創刊 1954年

2015年9月号(通巻719号) 2015年9月1日発行

発行所 日本野鳥の会東京

(〒160-0022)東京都新宿区新宿5-18-16

新宿伊藤ビル3階

事務所開館 月・水・金曜日 午前11時～午後4時

(Tel) 03-5273-5141 (Fax) 03-5273-5142

E-mail:office@yacho-tokyo.org

http://tokyo-birders.way-nifty.com/blog/

(研究部)http://homepage2.nifty.com/tokyo-birdstudy/

発行人 川沢祥三

印刷所 ベクトル

年会費 3,500円

郵便振替口座 日本野鳥の会東京 00180-7-152717

本誌記載記事の無断転載禁止